

科学者委員会 学術体制分科会（第 25 期・第4回）

議事要旨

1. 日時 令和3年7月1日（木）16:00~18:15

2. 会場 オンライン会議（Zoom）

3. 出席者

吉村委員長、橋本副委員長、北川幹事、佐々木幹事、伊佐、石塚、伊藤、梶田、小林（武）、小林（博）、中西、萩田、菱田、望月、吉田

（説明者）日本学術会議連携会員、大阪大学理事・副学長 尾上孝雄氏

（事務局）松室参事官、川名上席学術調査員他

4. 議事

1) 前回議事要旨の確認

- ・事前にメール配布をしていた資料1については、議場での再確認や意見はなかった。

2) 各大学における研究インテグリティへの対応に関するヒアリング

説明者 尾上孝雄先生

- ・資料2に基づき、尾上先生から直接説明を受けた。

---

- ・大阪大学での研究インテグリティに関係した対応状況、主に安全保障輸出管理関係で我々がやってきたこと、それを今後どう拡張して行く必要があるかと考えていることを紹介していく。

- ・関西地区は結構連携が進んでおり、大学安全保障輸出管理担当者のネットワークを築き、意見交換している。今年度も各大学の試み紹介や、経産省の課長にもオンラインでつないでいただき、昨今の状況を説明していただく連絡会を実施した。担当者間でのネットワークが出来つつあると思っている。

- ・国のルールでは最終的判断は大学に委ねられているが、この判断が難しい。各大学の輸出管理部門で外国人留学生、研究者全員の受け入れを審査するには人材確保の面でも、コスト面でも限界があると思うので、国においてルールを明確に定め、それに従って判断できる運用が効率的と考える。

3) 質疑応答

- ・尾上先生からの講演に対して質疑応答及び意見交換を行った。

4) 今後の進め方

資料3に基づき、吉村委員長より、今後の本分科会の対応として、研究インテグリティに関する審議を進めてきた結果、重要な問題であるということ、世の中が急速に動いていることから、学術コミュニティとして各論点を整理し、然るべきタイミングで公表していくことについて提案があっ

た。

その後今後の進め方について議論した結果、今後この案を基に論点を整理することとし、時期等については、引き続き検討することになった。

資料：

資料1：前回議事要旨を参照

資料2：大阪大学における国際的な研究活動に伴うリスクへの対応状況について（尾上先生）

資料3：論点整理（素案）